

特色

超高齢社会の到来により、脳神経疾患患者の数は確実に増加を続けております。脳神経内科では脳・脊髄・神経系の病気を扱います。疾患は、パーキンソン病、髄膜炎や脳炎などの感染症、末梢神経疾患、多発性筋炎や重症筋無力症などの筋疾患、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患など多岐にわたります。また、内科疾患や整形外科領域に関連する神経・筋疾患にも幅広く対応しています。現在スタッフは峯 秀樹、荒木みどり、山本遥平の三人体制です。

脳神経内科を取り巻く環境もここ10年で大きく変化しております。以前は外来で神経疾患患者を診断・加療し、増悪時には入院で加療を行い、通院が難しくなると訪問看護・診療を行い、当院にて全て一貫して治療を行ってまいりました。いち早く、進行性筋ジストロフィーをはじめとする神経難病患者の在宅人工呼吸器導入に

も取り組み、在宅医療を提供してまいりました。その後、近隣の訪問看護ステーションの整備、介護保険の導入などもあり、当院では訪問診療部門を大きく縮小し、多くは逆紹介にて開業医の先生方をお願いするようになりました。積極的に病診連携を心がけております。

但し、筋ジストロフィーやパーキンソン病のような特殊な神経難病疾患は慢性期においても専門的な医療を要することもあります。髄膜炎のような急性疾患からパーキンソン病のような慢性疾患まで幅広く対応したいと思います。

当院脳神経内科は日本神経学会の准教育施設に認定されています。

外来は月・火・木・金曜日です。外来は予約診療制となっておりますので、地域医療室を通じてのご予約をよろしくお願い致します。

対象疾患

主な疾患: パーキンソン病

日本での有病率は人口10万人当たり100~150人と推定されています。中脳黒質のドパミン産生神経細胞が減少することによって生じる進行性の神経疾患です。動作緩慢、手足の振戦、筋固縮等の症状を呈してきます。鑑別目的に脳MRI等の画像検査を行い、必要によりMIBG心筋シンチ、DATスキャン(ドパミントランスポーターシンチグラフィ)を行います。DATスキャンは平成26年、パーキンソン症候群とレビー小体型認知症に保険適応になった新たな検査です。当院では県内でもいち早く導入しております。

パーキンソン病の診断が確定すればL-DOPA等で治療を開始します。最近、運動合併症は脳内ドパミン濃度の変動が大きな原因であると考えられており、持続的ドパミン受容体刺激の重要性が叫ばれています。ドパミンアゴニストの貼付剤や徐放剤などをこの目的に使用します。

主な疾患: 認知症

平成30年度版高齢社会白書(内閣府)によると、65歳以上の高齢者人口は徐々に増加を続け、2042年には3,935万人でピークを迎え、総人口の減少も見込まれる中で高齢化率は上昇し、2065年には約40%に達

し、人口の2.5人に一人が高齢者という社会になると推定されています。超高齢社会の到来により、わが国の認知症患者数は現在約462万人(高齢者人口の15%)、軽度認知障害患者数は約400万人(高齢者人口の13%)と推定され、今後益々の増加が見込まれています。認知症の最大の危険因子は加齢です。65歳以降、年齢が5歳増えるごとに認知症のリスクは2倍に膨らみます。今後も日本人の平均寿命は伸びていくことが推定されており、有病率、総患者数もしばらくは増加していくと考えられています。

認知症は「いったん正常に発達した知的機能が持続的に低下し、複数の認知障害があるために社会生活に支障をきたすようになった状態」と定義されています。認知障害の中でも記憶障害(すなわち物忘れ)が中核をなす症状であり、早期から出現してきますが、単なる加齢による物忘れとは異なり、日常生活に支障が出てきます。認知症の原因には甲状腺機能低下症や慢性硬膜下血腫などのように治療可能な疾患も多く含まれています。当院では物忘れ患者に血液検査、脳波、脳血流シンチや脳MRI等を行い、認知症の鑑別・診断を行っています。

- 血液内 ①
- 腫瘍内 ②
- 腎臓内 ③
- 内分泌 ④
- 消化内 ⑤
- 循環器 ⑥
- 脳神内 ●
- 呼吸内 ⑧
- 感染症 ⑨
- 精神 ⑩
- 小児 ⑪
- 小児外 ⑫
- 消化外 ⑬
- 胸乳外 ⑭
- 脳神外 ⑮
- 心臓外 ⑯
- 整形外 ⑰
- リハ ⑱
- 皮膚 ⑲
- 形成外 ⑳
- 泌尿器 ㉑
- 腎外 ㉒
- 産婦人 ㉓
- 眼科 ㉔
- 耳鼻 ㉕
- 化学療 ㉖
- 放診断 ㉗
- 放治療 ㉘
- 放核医 ㉙
- 麻酔 ㉚
- 歯科 ㉛
- 救急 ㉜
- 心不全 ㉝
- がんゲ ㉞
- 健診 ㉟
- 病理 ㊱
- 薬剤 ㊲
- 検査 ㊳
- 超音波 ㊴
- 臨床工 ㊵
- 看護 ㊶
- 血管治療 ㊷
- 消化器 ㊸
- 呼吸器 ㊹
- 生殖医療 ㊺
- 腎臓病 ㊻
- ロボット ㊼
- 女性外来 ㊽
- 緩和 ㊾
- 下肢 ㊿
- 呼吸ケア ㉀
- NST ㉁
- 認知症 ㉂
- 褥瘡 ㉃
- RRT ㉄
- 転倒予防 ㉅
- 内科専 ㉆
- 外科専 ㉇

〈アルツハイマー病〉

アルツハイマー病の患者数は約312万人(認知症高齢者の67.6%)と推定され、認知症最大の原因疾患です。症状は記憶障害や見当識障害などの中核症状に加えて妄想や徘徊などの周辺症状も出現してきます。アルツハイマー病は脳内にアミロイドとタウが異常に蓄積してくる疾患であり、確定診断は病理解析によりなされるので、生前に確定診断することは難しい疾患です。症状経過や画像検査での海馬領域の萎縮(脳MRIを用いたVSRAD)、脳血流シンチでの頭頂葉から側頭葉に血流低下などから診断をしていきます。診断がつくと患者様や御家族と相談の上、薬物治療を行います。現在、3種類のコリンエステラーゼ阻害薬に加えてメマンチン(NMDA受容体拮抗薬)などの薬剤もあり、状況に応じて対応しています。

〈レビー小体型認知症〉

レビー小体型認知症は、変動する認知障害、パーキンソンニズム、幻視、妄想、自律神経症状、レム睡眠行動障害などを特徴とする疾患です。神経細胞にレビー小体という封入体が出現します。レビー小体が脳幹部にみられるのがパーキンソン病で、脳内の広範に認められるのがレビー小体型認知症です。脳血流シンチでの後頭葉の血流低下、MIBG心筋シンチでの心集積の低下、ドパミントランスポーター画像での線条体の集積低下等で診断していきます。ドネペジル塩酸塩がこの疾患に

保険適応となっています。

当院ではCT、MRI等に加えて、ここに記載したRIを用いた脳血流シンチ等の種々の検査が可能です。当院の医療ソーシャルワーカーと連携し、介護保険等の社会資源を活用し、療養環境の確保にも力を入れています。また、認知症の認定看護師の資格を持つスタッフを中心に、入院患者様向けの院内デイケアを行っています。病院という特殊な環境を患者様の状況に応じて生活感のあるものに少しでも近づけて、その人らしく生活を維持していけるように心がけています。現在、週に2日、日中にデイケアを行い、体操や日光浴、また趣味の習字や手芸といった患者に応じた取り組みを行っています。植木の水遣りや野菜を栽培したりなど患者様のニーズに沿って行っています。認知症患者では転倒しやすいことが知られています。注意機能の低下や自分の身体機能に比して早足になることなどが転倒の一因であると考えられています。また、認知症患者では昼夜逆転も多く、夜間の徘徊の問題、その際の転倒も大きな問題になります。デイケアでは意欲をもってその人らしく生きていただくことのお役立てとともに、日中の覚醒度をあげて夜間の良眠、転倒転落の防止につながればと思っています。

但し、当院におきましては精神科病棟もないことから不穏等の周辺症状が顕著な患者さんの診療にはこたえることはできませんのでその点はご理解ください。

診療実績

脳神経内科では、外来患者はパーキンソン病、認知症が中心です。入院患者につきましては別表のとおりです。ギラン・バレー症候群などの急性疾患やパーキンソン病などの神経難病疾患の急性増悪での入院、多系統萎縮症や脊髄小脳変性症等の疾患の診断確定時の検査入院などを行っています。

症例名	数
脳血管障害	11
パーキンソン病	42
他のパーキンソンニズム	3
多系統萎縮症	2
脊髄小脳萎縮症	3
認知症性疾患	2
免疫関連性中枢神経疾患(多発性硬化症など)	10
末梢神経疾患(ギラン・バレー症候群など)	24
筋疾患(筋炎など)	11
神経感染症(脳炎・髄膜炎など)	5
てんかん	3
内科疾患に伴う神経障害	35
その他	76

※2020年(2020年1月1日~2020年12月31日)入院患者数

地域の先生方へ

超高齢社会の到来により、認知症、パーキンソン病などの脳神経疾患患者の数は確実に増加を続けております。一方、脳神経内科医は全国的に不足しており、当院におきましても診療のご予約等でご迷惑をおかけしていることと存じます。外来診療は月・火・木の午前、月・金の午後ですので地域医療室を通じてのご予約をよろしくお願い致します。脳神経内科はよく精神科や心療内科と混同されますが、心の病気を扱う精神科などとは大きく異なります。脳神経内科は「神経系」の器質的な異常をもつ疾患の診断と治療を行う内科の一分野です。しびれや頭痛、歩行障害等でお困りの患者さんをご紹介いただければ幸いです。積極的に病診連携を心がけており

ますので引き続きよろしくお願いいたします。

脳神経内科では髄膜炎のような急性疾患を対象とする一方、残念ながら神経疾患は完全に治癒しにくいこともあり、慢性疾患の対応も柔軟に行っております。

急性期から慢性期、在宅も含めての幅広い対応を心がけています。患者さんが少しでも社会復帰できるように医療社会事業部などの協力を得て、療養環境の整備、介護保険などの福祉制度の有効活用などに力を入れております。地域医療室を通じて近隣の医療機関様と診療情報の円滑な共有を図りたいと考えておりますので、かかりつけ医の先生方におかれましては引き続きよろしくお願いいたします。

血液内 ①

腫瘍内 ②

腎臓内 ③

内分泌 ④

消化内 ⑤

循環器 ⑥

脳神内 ●

呼吸内 ⑧

感染症 ⑨

精神 ⑩

小児 ⑪

小児外 ⑫

消化外 ⑬

胸乳外 ⑭

脳神外 ⑮

心臓外 ⑯

整形外 ⑰

リハ ⑱

皮膚 ⑲

形成外 ⑳

泌尿器 ㉑

腎外 ㉒

産婦人 ㉓

眼科 ㉔

耳鼻 ㉕

化学療 ㉖

放診断 ㉗

放治療 ㉘

放核医 ㉙

麻酔 ㉚

歯科 ㉛

救急 ㉜

心不全 ㉝

がんゲ ㉞

健診 ㉟

病理 ㊱

薬剤 ㊲

検査 ㊳

超音波 ㊴

臨床工 ㊵

看護 ㊶

血管治療 ㊷

消化器 ㊸

呼吸器 ㊹

生殖医療 ㊺

腎臓病 ㊻

ロボット ㊼

女性外来 ㊽

緩和 ㊾

下肢 ㊿

呼吸ケア ㉀

NST ㉁

認知症 ㉂

褥瘡 ㉃

RRT ㉄

転倒予防 ㉅

内科専 ㉆

外科専 ㉇